

お客様各位

2012年6月25日

白山工業株式会社

うるう秒調整時の挙動 計測機器低消費電力データロガー LS-8800

[GPS モジュール]

使用されている GPS モジュールは、古野電気製 GT-80B6F です。
LS-8800 ではうるう秒調整に対応しています。
うるう秒調整時、曜日に関わらず下記[挙動詳細]の動作をします。

[ファームウェアについて]

ファームウェアは最新のバージョンをご利用ください。
古いバージョンの場合、うるう秒調整の影響により下記の不具合が発生します。

- Ver1.52 以前のファームウェアの場合、測定中にうるう秒調整が発生すると測定データのタイムスタンプがずれます。
- Ver1.50/1.52 のファームウェアの場合、うるう秒予告情報を受け取ると、時刻校正が連続で失敗します。
この状態で再起動や電源再投入を行うと初回時刻校正に失敗し測定が開始されません。

[挙動詳細]

ハングアップせずに動作は継続されます。

- 測定データは全て、
08:59:59 ⇒ 08:59:60 ⇒ 09:00:00 ⇒ 09:00:01
となり、うるう秒調整に対応します。
TP-8800へ接続した場合でも ACT, WIN_UDP 出力は同様のタイムスタンプが付加されます。
- EventLog は、Clock calibration : Leap sec +1 のログが記録されます。
- ClockCal.Log は、時刻校正とうるう秒調整が重なった場合、うるう秒を含んだ時刻校正結果は残しません。うるう秒調整後、UTC オフセット項目の秒数が 15 から 16 へ変化します。
- Position.Log は、測位時刻とうるう秒調整が重なった場合、ログの測位時刻には 9:00:00 と記録されます。
- リアルタイムモニタ出力は、うるう秒調整に対応してそのまま波形を表示します。
受信して作成したデータファイルは 61 秒分のデータになります。
RealtimeMonitor (Ver1.03) はうるう秒に対応しています。

[最新バージョンのご案内]

LS-8800 : <http://www.hakusan.co.jp/download/keisoku/update/ls8800.shtml>

[うるう秒調整後に動作させる場合]

うるう秒調整情報を持たない機器(うるう秒調整を知らない機器)を開始させた場合、起動時にアルマナック取得動作を行うため測定開始まで通常よりも時間がかかります

アルマナック情報が取得されると、うるう秒を考慮された状態で測定を開始するため測定データに1秒ずれは発生しません。

□調整後に動作させる場合の対策について

うるう秒調整を知らない機器では測定開始まで十数分かかります。

うるう秒情報を含んだアルマナックファイルを使って、本体のGPS受信機へ保存(LOAD)することで起動時間を短くすることができます。

※うるう秒調整の有無に関わらず、長期間ご使用されていない機器では最新のアルマナック情報を取得してからお使いください。